

謝 辞

この度は応用化学科褒賞という名誉ある賞を頂くことが出来、大変光栄なことと存じます。このような素晴らしい賞を頂くことが出来たのは、化学の面白さを熱心にご指導して下さった先生方のおかげです。心より御礼申し上げます。

大学生活はしばしば「モラトリアム」と揶揄されますが、応用化学科での四年間はこの言葉には全く似つかわしくないものと断言できます。入学当初は必修科目で埋め尽くされた時間割に大変驚きました。専門科目は難解でしたが、その分、様々な分野について基礎から応用まで深く、数多くの知識を学ぶことが出来ました。また、講義では先生方の物事の見方や考え方に触れ、研究に向き合う姿勢や信念をこの身で感じ、自己を省みる貴重な機会を頂きました。

加えて、本学科の学生生活を語る上で実験は欠かせません。毎週のように実験を行い、レポートを提出することは多大な労力を要しました。しかしながら、それ以上に実りのある時間を過ごしたと確信しております。研究で重要な、観察眼、考

察、方針立案の能力はこの経験を通して養うことができました。自らの手を動かし、四年の歳月をかけて得た力は化学者としての礎となる、かけがえのないものです。

四年次からの研究室生活では人間的に大きく

成長することができたと実感しています。新しい題目に取り組んだため、研究は装置の自作から始まりました。不慣れな作業に疲弊しましたが、必死の思いで装置を完成させることができました。また、学会への参加や海外の方との交流を通して、より広い視野で物事を捉える重要性を認識しました。研究室での一年は新たな挑戦の連続であり、とても充実した時間でした。

修士課程では恵まれた環境で研究出来ることに感謝し、慢心することなく課題へ向き合い、研の面でも、人間性の面でもより一層成長したい所存です。将来は研究者として化学の分野で社会へ貢献することを志しております。「役立つ化学、役立てる化学」という本学科の理念にあるよう、応用の先にある社会や人々を大切にしたい研究者

を目指して、邁進して参ります。

最後に本褒賞の設立、選考に関わりました全ての関係者の方々に厚く御礼申し上げます。また、今日までお世話になりました先生方、先輩、同期の皆様、そして家族に重ねて感謝申し上げます。

本当に有難うございました。

二〇二五年三月二十六日

早稲田大学 先進理工学部 応用化学科

安藤